～ドイツ人と日本人の特性について～

伊藤　希

1. 初めに

初めに、「ドイツ人」と聞いてあなたはどのような人物像を思い浮かべますか？おそらく、ガタイの良い、ビール愛好家というイメージを持っていました。そこで今回は、アウクスブルク滞在を通して感じたドイツ人の特性や、日本人との違いについて、実体験に基づいて論じていきたいと思います。



２．ドイツ人の国民性と国家の関係

私は現在、外国語学部に所属しており、ヨーロッパ、特にドイツの恋愛観から時代背景を読み解くという講義を受講しています。この講義では、恋愛を単に個人の感情として捉えるのではなく、政治や戦争、社会制度などとの関係から考察するというものです。講義内では、東西ドイツの分裂によって、人々の恋愛や結婚、誰とどこで暮らすかという選択が影響を受けることがあるのかということを学習しました。

このような内容から、私は人々の考え方や行動は、個人の性格だけでなく、その人が暮らす社会の歴史や文化とも深く関係しているのではないかと考えました。そして、この視点は恋愛に限らず、日常生活における行動や、過去の歴史に対する向き合い方を考える際にも当てはまるのではないかと思いました。

３．ドイツ人と法の順守

ドイツ人の国民性について考える中で、ホストファミリーから興味深い話を聞きました。それは、世界で信号を守るのはドイツ人と日本人だけであるという話です。信号を守ることは一見当たり前の行動ですが、実際、私がイギリスを訪れた際も、東南アジアの国に行った時もきっちりと信号を守っていた人はほとんどいませんでした。このように日本では、周囲の人に迷惑をかけないことや、集団の中で決まりを守ることを美徳とする風潮があります。

ドイツについても、規則や決まりを大切にし、堅実なイメージがあります。このような共通点から、両国には社会の秩序や安全を維持するために、ルールを守ろうとする意識が他国に比べて高いのではないかと考えました。

ドイツではその意識をさらに高めさせるため、信号無視には罰金が科せられているそうです。赤信号での横断はアンペルマンルールと呼ばれ、警察に捕まえら

れると、5〜10 ユーロの罰金が義務付けられています。(約 900 円〜1800 円) また、車に乗っている時に信号無視をすると、一か月の免停と 200 ユーロ (約 24000 円) の罰金があります。同じように日本でも、歩行者で 2 万円、普通車両で 9000 円を支払わなくてはいけません。一方、イギリスでは普通車両には 14000 円科されるものの、歩行者はその対象になっていません。(ちなみに歩行者が信号無視することをジェイウォーキングと呼ぶそうです。)

このような制度が整っているからこそ、規範を守ろうとする国民性が交通のみならず、日常において表れるのではないかと考えました。



4. ドイツにおける戦争の記録

もう一つ、私が興味深いと感じたのは、ドイツにおける戦争の記録です。私たちはこの滞在中に、ダッハウ強制収容所を訪問しました。そこでガイドの方がこう仰っていました。“ドイツ人は良くも悪くもすべて記録する癖があるので、このように戦争に関する記録が多く残っているのです。“と。私はこのように記録し、後世に伝えようとする姿勢も、真面目なドイツ人の国民性の表れといえるのではないかと考えました。収容所には、写真や説明の文章だけでなく、実際に犠牲になった方々が身に着けていた衣服などが保管されていました。また、戦争に関する記録を残すことは、過去の出来事を保存するだけでなく、同じ過ちを繰り返さないためにも重要な意味を持ちます。歴史を学ぶ際に、出来事の名称や年代を覚えることも大切ですが、実際に何が起こり、人々がどのような被害を受けたのかを自分の目で見て感じられる場を設ける必要です。そのためにも、当時の写真や資料、実際に使用されていた物品などを保存し、後世の人々が学べる環境が整っていることは重要だと感じました。ダッハウ強制収容所を訪れた経験を通して、歴史を記録することは過去を振り返るためだけではなく、未来の社会について考えることにもつながるのだと感じました。



↑収容所内の展示

同じように、日本にも戦争に関する資料や記念施設、戦争を経験した人々の証言などは多く残されています。しかし、ド

イツは戦争以外の面から考えた際にも、ドイツの街には資料館や歴史的な博物館が日本よりも圧倒的に多いように感じました。ドイツでは教育重視の文化政策が推し進められているため、このような資料館や博物館を学びの場として提供しているそうです。ガイドの方の話を踏まえると、ドイツ人の几帳面で記録癖のあるドイツ人の国民性は、街の至る所で見受けられるように感じました。



5. 終わりに

今回、ドイツ人の特性について考えたことで国民性は個人単位だけではなく、その国の社会規範や歴史にも深く根付いていることが分かりました。信号を守るという日常的な行動と、戦争の記録を残して後世に伝えるという歴史的な取り組みは、一見異なるものですが、どちらも堅実・真面目なドイツ人の性格と結びついているように思いました。これらの気づきは、今後、異なる国籍を持つ人々と関わる際にも役立つと考えます。その国の歴史や日常的な行動に注目し、そこにどのような背景があるのかを考えることで、相手の文化や価値観への理解をより一層深められると思います。これからも積極的に異文化に触れ、自分が持っている先入観だけで判断するのではなく、それぞれの国の歴史や社会的背景にも目を向けながら、多角的な視点で異文化理解を深めていきたいです。